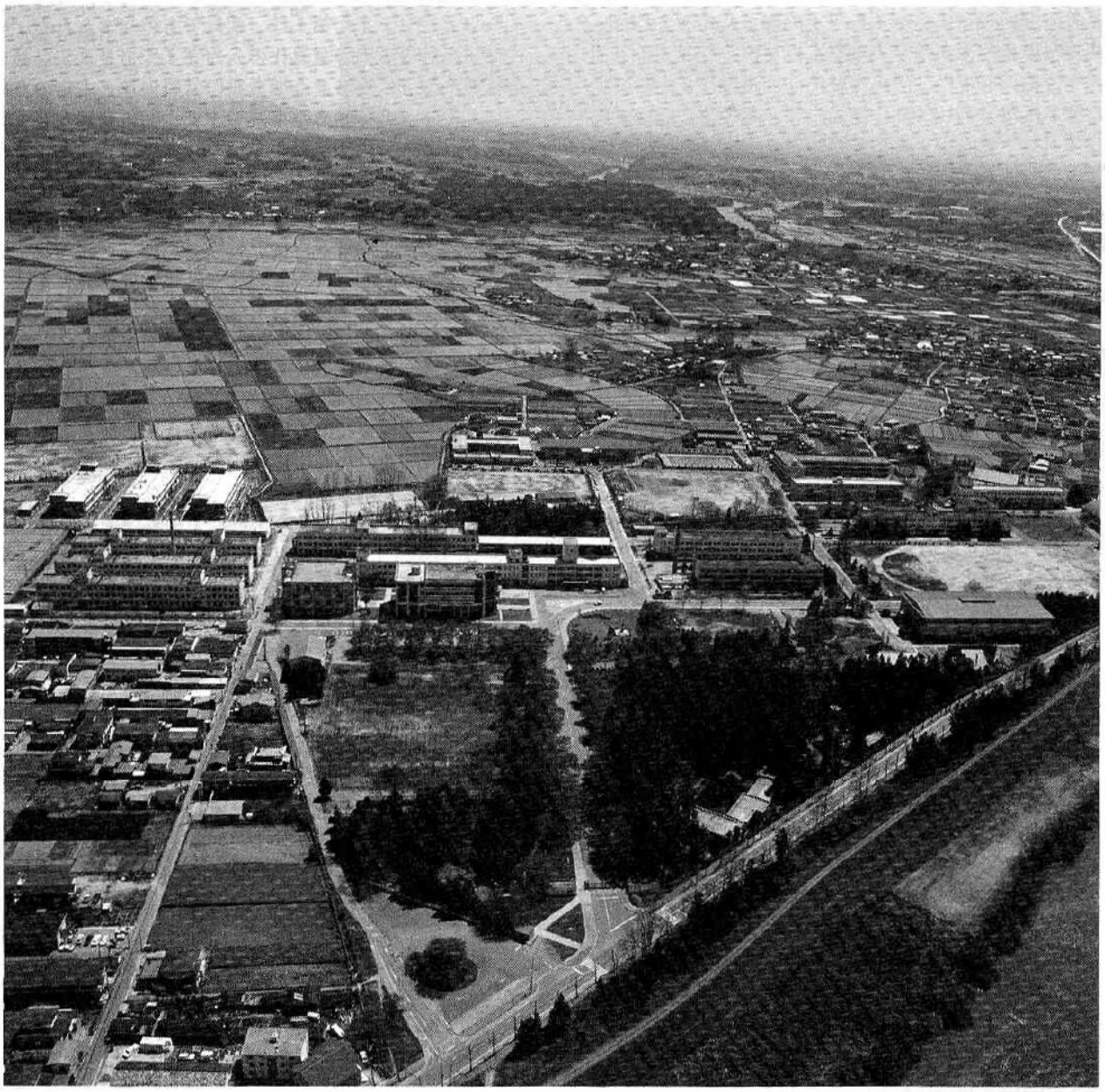
日本大学工学部

校友会報

第 36 号
昭和55年 9 月 1 日

目　　次

あいさつ（工学部長、校友会長）……2
昭和55年度第23回総会報告……3～4
校友会会則……5～7
会員管理の電算化の現況……7
校友短信・噂のページ……8～9
支部だより……10
CAMPUS mini MEMO ……11
根本年雄氏を悼む・他……12



空から見た日本大学工学部

ごあいさつ

日本大学工学部長
廣川友雄

本年３月をもって本学部の卒業生は、学部19,187名、大学院修士162名、同博士11名（うち２名学位取得）となりました。専門部移設以来33年というわれわれにとっては永い歴史の上の人数であります。

これら卒業生は日本中各地のみならず、外国で仕事をしている者も多く、これらの者が郡山のキャンパスで結ばれていると思うと感慨深いものがあります。

その郡山のキャンパスも年々充実されてきました。昨年度以来の充実振りの主なものを拾ってみますと、

１．約 880坪の２階建実験棟３棟建設、２．器楽練習棟２階建（約 200坪）建設、３．第３種公認陸上競技場（目下建設中）４．各科にわたる総計１億円余の設備〔昭和54年度分〕、５．約 7,000万円、10,000冊の図書〔総計12万冊〕、６．教育、研究用大型電算機などであります。その他に学生の特徴を助長するために、先生方が得意とするテーマでのゼミナールを本年度から開設しました。

また、教員組織の充実も進めておりますが、その中で本学部卒業生で母校に勤務している者約70名、そのうち７名は学位を取得しており、うち３名は教授となっております。また学位取得の上国立大学で教授となっている者２名、助教授１名、韓国で教授となっている者１名おります。

ところで、近年高校卒業生の理工系進学者が全般的に減少の傾向にあります。その原因の有力な１つは日本における理工系技術者が大変優秀なことにあるようです。一見矛盾するかのように見えますが、資源、エネルギー源を持たない日本が、世界の先進国といわれている国の経済をおびやかすに至っているもとは、日本の工業技術関係者の有能なことにあり、そのためにマネイジメントの重要さが生じて来たことにあります。これは、製造過程のマネイジメントだけではなく、政治、商取引さらには訴訟などに有能な者が活躍し、派手に目立って参りました。これにひかれて、高校生あるいはその父兄の志向に変化をきたしているのではないかと思いますが、その根幹には日本の工業技術の優秀さがあることを忘れてはなりません。

卒業生諸君はこれらのことは充分御承知のことと思いますので、このことを若い者に知らせ有能な技術者が１人でも多くなるよう努力願えれば日本のために幸いであると思います。

終りに卒業生諸君の御発展と御健康を希念して御挨拶と致します。

（日本大学教授、工学部校友会顧問）

ごあいさつ

日本大学工学部校友会長
武田仁幸

認識の多様化がもたらした複雑多岐の80年代が始まりました。全国各地で一生懸命自らの職責に励まれておられる校友の皆様にはなみなみならぬご苦労があるものと推察いたし、衰心よりねぎらい申し上げます。また、いつも本会のためには、種々のご協力をいただき、ここに謝意を表する次第であります。

さて、本会の本年度における施策について申し上げたいと存じます。第１は、前号でものべましたが、卒業生全員の名簿の電算化の入力完了であります。社会状勢の激変にともなう準会員の就職促進と安定のためにと３年計画で始めた事業ですが、この意義が高く評価されて入力を２年目の本年度で完了することになりました。事務局も多忙を極めておりますが、校友の皆様には、よろしくご協力下さいます様お願い致します。この名簿は、準会員のためには、工学部、校友会、父兄会の三者の協力態勢を組み、就職促進と安定をはかるために使用したいし、また我々会員には、早や停年組も出て参りましたので、第二の職場を求める資料にあるいは転職や仕事にも活用していただきたいと存じます。第２は、組織拡大であります。一昨年より九州地区に出向き調査打診をいたしておりましたところ、校友の比較的多い福岡市に九州支部が結成されました。関係各位のご協力に対し御礼とお慶びを申し上げます。また山口県あかしや会を主幹している山田啓介君（建築６回卒）のご尽力により、中国地区にもその内に支部ができるのではないかと期待しております。貴地方の諸兄の近況をお知らせ下されば幸に存じます。

第３は、たびたび機会あるごとにお願い申し上げました日本大学創立九十周年事業へのご理解とご協力についてであります。昨年の顕義園の竣工にひきつづき日本大学センターの建設も順調に進展しております、校友会が目標とする募金額の達成に皆様のご援助をたまわりますよう重ねてお願い申し上げます。

以上の三つが主たるものですが、本会はあくまでも母校の隆盛発展を希う親睦団体ですから校友諸兄との和を密にして学部発展のために種々の活動をすることは申すまでもありません。

私の関係するロータリー会長のことばに、仕事は多忙な人に頼め、という一文があり大変感銘いたしました。忙しい人は貴重な時間を上手に使って、始めた仕事は必らずやり遂げますと結んでおりました。会員諸兄も職責多忙の年代と思いますが、頼る人を持つよりも、頼られる人であることを信条とし、ご健康でご活躍下さいますよう祈念し、挨拶といたします。

（土木工学科第３回卒業、東和工業㈱）

昭和55年度第23回定期総会報告

第23回定期総会は、衆・参両議員ダブル選挙がうわさされた、4月26日(土)、日本大学郡山研修会館に於て、午後2時より会員多数出席のもとに開催された。

総会は半沢副会長の開会の辞に始まり、武田会長が日本大学出身者から総理をと、河本先生が立候補予定していること、54年度もつつがなく過ごすことができたと感謝の意を述べ、80年代に入って最初の総会であると挨拶、次いで議長に関根昭一(電2回)、書記に馬場彦吉(建15回)、長谷川一夫(土19回)、議事録署名人に細井和由(土5回)、国分正孝(建19回)の各氏がそれぞれ選出され、議長挨拶の後、議事に入った。

議事内容下記の通り。

報告第1号　昭和54年度会務報告
承認第1号　昭和54年度一般会計収支決算報告
承認第2号　昭和54年度特別会計収支決算報告
議案第1号　昭和55年度事業計画について
議案第2号　昭和55年度一般会計収支予算案
議案第3号　昭和55年度特別会計収支予算案
議案第4号　校友会会則の改正について
議案第5号　昭和55年度役員選出について
議案第6号　その他

議事の進行と結果は次の通り。

報告第1号：西村事業部長より報告があり、報告通り承認、承認第1～2号：小栗経理部長より（表－1 表－2）一括して報告、更に会計監査を代表して、木村監査より監査の結果、適正であったことの報告があった。次いで質疑応答に入り、一般会計の歳入の会費予算15,000円に対して、決算額が大巾増の関連について。予算に入会金10,000円と計上されているが、会則には 5,000円となっていることについて。終身会費の決算額の端数について。式典費の概要について。基本財産から繰り入れとあるが、その内容に関して等の質疑があり、これに対して、会長並びに会計監査より解答があり、報告通り承認された。議案第1号：西村事業部長より報告の後、質疑に入る。特に組織の強化について支部は組織上どのように位置づけされているのか、財政的措置をどうしているかの質問があったが、議案第2号と関連するのでその時に説明することで了解、承認された。議案第2～3号：小栗経理部長が一括提案説明の後、質疑に入る。組織強化について、予算が少ないのではないか、管理費が50%強と多すぎないか、積立金の使用目的を明確にすべきではないか等質問があり、会長、副会長よりそれぞれ解答されたが結論が得られず、今後の研究課題とすることで承認された。議案第4号：半沢副会長より提案説明、会則を会報にて会員に知らせることで承認される。議案第5号：従来選考委員会を設けて新役員の選出を行なっていたが、今回は執行部一任と立候補で決めるべきだとの意見に分かれ、採決の結果役員の立候補が認められ理事に菊地泰彦（土13回）氏の立候補があり、同氏の所信表明の後、採決に入ったが特に意見もなく、同氏の理事が決定した。その他の役員の選出は会長一任とし、決定後は会報で知らせることで承認された。議案第6号：特になし。

次いで、三浦先生（河本先生の秘書）より河本先生のメッセージの朗読があり、今後の政界に於ける御活躍を期待し、議案の審議を全て終り、半沢副会長の挨拶で閉会した。

引続き、日本大学本部より、法学部次長中山政夫氏工学部長広川友雄先生、日本大学校友会福島県支部長高橋堯氏、父兄会副会長西條春吉氏他、工学部教職員多数来賓の御出席のもとに懇親会が盛大に開かれた。

別　表

表－1
昭和54年度一般会計収支決算書

歳　入

単位円　△……減

款項		種目	予算額	決算額	比較増減
会費	1	終身会費	5,000	5,964,000	5,959,000
	2	入会金	10,000	12,110,000	12,100,000
		計	15,000	18,074,000	18,059,000
繰越金	3	前年度繰越金	17,359,751	17,359,751	0
		計	17,359,751	17,359,751	0
雑入	4	預金利子	60,000	277,988	217,988
	5	職員負担金	220,000	232,734	12,734
	6	雑収入	10,000	89,700	79,700
		計	290,000	600,422	310,422
繰入金	7	基本財産より繰入	585,249	0	△ 585,249
		計	585,249	0	△ 585,249
合計			18,250,000	36,034,173	17,784,173

歳　出

款項		種目	予算額	流用増減額	予算現額	決算額	比較増減
事務費	1	給料・手当	3,090,000	0	3,090,000	2,994,587	△ 95,413
	2	保険料	380,000	0	380,000	367,944	△ 12,056
	3	交通費	350,000	0	350,000	350,000	0
	4	旅費	160,000	0	160,000	71,720	△ 88,280
	5	交際費	300,000	100,400	400,400	400,400	0
	6	消耗品費	150,000	△ 6,000	144,000	97,320	△ 46,680
	7	備品費	250,000	6,000	256,000	256,000	0
	8	印刷製本費	450,000	0	450,000	380,272	△ 69,728

歳出の続き

款項	種目		予算額	流用増減額	予算現額	決算額	比較増減
事務費	9	通信運搬費	210,000	0	210,000	206,040	△ 3,960
	10	庁舎維持費	10,000	0	10,000	0	△ 10,000
	11	光熱水道料	40,000	0	40,000	30,000	△ 10,000
	12	職員給与費等	180,000	0	180,000	174,120	△ 5,880
	13	雑費	140,000	0	140,000	136,745	△ 3,255
	計		5,710,000	100,400	5,810,400	5,465,148	△ 345,252
事業費	14	組織対策費	250,000	0	250,000	180,000	△ 70,000
	15	会報発行費	2,000,000	33,520	2,033,520	2,033,520	0
	16	名簿作成費	560,000	△ 33,520	526,480	403,700	△ 122,780
	17	下宿対策費	10,000	0	10,000	5,660	△ 4,340
	18	図書供与費	500,000	0	500,000	500,000	△ 0
	19	式典費	2,660,000	0	2,660,000	2,050,810	△ 609,190
	20	負担・補助・奨励費	650,000	0	650,000	650,000	0
	21	旅費	670,000	0	670,000	376,100	△ 293,900
	計		7,300,000	0	7,300,000	6,199,790	△ 1,100,210
会議費	22	総会費	500,000	0	500,000	392,235	△ 107,765
	23	役員会費	490,000	0	490,000	397,347	△ 92,653
	24	連絡協議会費	650,000	54,054	704,054	704,054	0
	25	旅費	700,000	0	700,000	419,570	△ 280,430
	計		2,340,000	54,054	2,394,054	1,913,206	△ 480,848
積立金	26	積立金	2,700,000	0	2,700,000	2,700,000	0
	計		2,700,000	0	2,700,000	2,700,000	0
予備費	27	予備費	200,000	△ 154,454	45,546	0	△ 45,546
	計		200,000	△ 154,454	45,546	0	△ 45,546
合計			18,250,000	0	18,250,000	16,278,144	△ 1,971,856

歳入額　35,034,173円　　歳出額　16,278,144円

差引残額　19,756,029円を翌年度へ繰越するものとする。

表—2
昭和54年度会員名簿電算機処理事業特別会計収支決算書

歳入

単位円　△…減

款項	種目		予算額	決算額	比較増減
繰入金	1	基本財産より繰入	4,539,000	4,539,000	0
	計		4,539,000	4,539,000	0
雑入	2	雑収入	1,000	2,000,000	1,999,000
	計		1,000	2,000,000	1,999,000
合計			4,540,000	6,539,000	1,999,000

歳出

款項	種目		予算額	流用増減額	予算現額	決算額	比較増減
事務費	1	賃金	35,000	0	35,000	35,000	0
	2	消耗品費	10,000	0	10,000	6,200	△ 3,800
	3	印刷製本費	350,000	230	350,230	350,230	0
	4	通信運搬費	520,000	0	520,000	493,680	△ 26,320
	計		915,000	230	915,230	885,110	△ 30,120
事業費	5	委託料	3,600,000	0	3,600,000	3,573,498	△ 26,502
	計		3,600,000	0	3,600,000	3,573,498	△ 26,502
予備費	6	予備費	25,000	△ 230	24,770	0	△ 24,770
	計		25,000	△ 230	24,770	0	△ 24,770
合計			4,540,000	0	4,540,000	4,458,608	△ 81,392

歳入額　6,539,000円　　歳出額　4,458,608円

差引残額　2,080,392円を翌年度へ繰越するものとする。

昭和54年度財産現在高

55.3.31現在　　単位円

財産別	現在高
運用費	21,836,421
基本財産	10,422,824
合計	32,259,245

昭和55年度役員名簿

役名	卒業	氏名	勤務先
会長	土3	武田　仁幸	東和工業㈱　(自営)
副会長	化6	半沢　忠	パラマウント硝子工業㈱　研究課
〃	土8	武藤　貞泰	郡山市役所下水道課
事務局長	機9	佐藤　光正	日本大学工学部機械工学科
理事 経理部長	建7	小栗　治男	日本大学工学部建築学科
理事 事業部長	土13	西村　孝	日本大学工学部土木工学科
理事	土3	松山　光克	郡山市水道局建設課
〃	土3	太田雄八郎	郡山市役所土木建設課
〃	化3	高野　操	日本大学工学部工業化学科
〃	建6	佐藤　満夫	日本大学工学部建築学科
〃	電9	高久田　稔	白河実業高等学校
〃	土13	菊地　泰彦	大木建設㈱東京土木支店工事課
〃	化14	小川　敏彦	日本大学工学部工業化学科
〃	電16	伊藤　義人	郡山市水道局建設課
〃	機17	今村　仙治	日本大学工学部機械工学科
会計監査	機2	菅野　宗和	日本大学工学部機械工学科
〃	化2	後藤　尚	日本大学工学部工業化学科
〃	建3	木村　圭二	郡山市役所農政課
評議員	電1	国分　欽智	日本大学工学部電気工学科
〃	電2	関根　昭一	郡山北工業高等学校
〃	化2	菊池　光子	日本大学工学部工業化学科
〃	化2	篠崎　道夫	パラマウント硝子工業㈱施設課
〃	機4	近藤　功	二本松工業高等学校
〃	土5	梅原　正章	日東建設㈱福島営業所
〃	土6	佐藤　吉新	㈱共立水道コンサルタント　(自営)
〃	建8	吉橋　栄吉	日本大学東北高等学校
〃	建10	橋本　寛	日本大学工学部建築学科
〃	機11	酒井　勝雄	福島県工業試験場金属材料科
〃	土12	村田　吉晴	日本大学工学部土木工学科
〃	電14	伊藤　宜世	オーディオ開成㈱　(自営)
〃	建15	馬場　彦吉	郡山北工業高等学校
〃	化16	野尻大五郎	郡山市水道局浄水課
〃	機17	鈴木　清司	郡山三菱自動車販売㈱本社サービス部
〃	建18	国分　正孝	東和工業㈱　工事部
〃	土19	長谷川一夫	郡山市水道局建設課
〃	電20	首部　忠義	郡山市水道局浄水課
〃	土21	広島　英憲	郡山市役所土木建設課
〃	建21	久野　清	久野学園
〃 東北部	土3	古村　和夫	古村建設㈱　(自営)
〃 東北部	土3	平野　卓	建設省中部地方建設局丸山ダム管理所
〃 北海道部	機7	園部　敬次	北海道開発コンサルタント㈱建築都市部

(55.6.1現在)

日本大学工学部校友会会則

第1章　総　　則

第1条　本会は日本大学工学部校友会と称する。

第2条　本会の事務局は日本大学工学部校友会館内に置く。

第3条　本会は学術研究の推進並びに会員相互の向上親睦を図りもって母校発展に寄与することを目的とする。

第2章　事　　業

第4条　本会は次の事業を行う。

1．会員名簿の作成

2．会誌の発行

3．学生に対する下宿の紹介及び図書の供与

4．研究会及び講演会

5．その他本会の目的達成に必要な事業

第3章　組　　織

第5条　本会の目的を達成するため支部・支会を設置することが出来る。

第6条　支部及び支会は当該地在住の会員をもって組織する。

第7条　支部及び支会についての細部は支部・支会で定めるものとする。

第8条　支部支会の発足及び解散にあっては本会事務局に届け出るものとする。

第4章　会　　員

第9条　本会の会員は次の各号とする。

1．正会員

2．準会員

3．賛助会員

第10条　正会員は日本大学工学部（旧称第二工学部）を卒業した者及び日本大学大学院工学研究科を終了した者。

第11条　準会員は日本大学工学部在学中の学生。

第12条　賛助会員は個人又は団体であって本会の目的事業を賛助する者。

第13条　本会会員は所定の会費を納入しなければならない。

第5章　役　　員

第14条　本会の役員は次の各号とする。

1．顧　　問　　1名（工学部長）

2．会　　長　　1名

3．副 会 長　　2名

4．事務局長　　1名

5．理　　事　　10名

6．会計監査　　3名

7．評 議 員　　20名

8．日本大学本部評議員は理事相当職とする。

9．支部長は評議員とする。

第15条　役員の選出方法は次の各号による。

1．前条第2号第3号第4号第5号及び第6号は総会において正会員中よりこれを選出する。経理担当理事及び事業担当理事は理事会において任命する。

2．前条第7号は理事会の推薦に基づき会長がこれを任命する。

第16条　役員の任務は次の各号とする。

1．会長は本会を統括し、会務を処理する。

2．副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時これを代理する。

3．事務局長は本会の事務処理にあたると共に事務局職員の指導監督を行う。

4．経理担当理事は本会経理事務を担当し、会務を処理する。

5．事業担当理事は本会事業運営のため会務を処理し各事業分担理事の統括を図る。

6．理事は本会目的事業のためこれを処理する。

7．会計監査は本会年度予算における会計決算事務を監査し会務を処理する。

8．評議員は本会活動事業内容等を提示し会務を処理する。

第17条　役員の任期は満1年とし再任を妨げない。

第18条　任期中における役員の空席に関しては、理事会の議決により補欠選出を行なう事がある。

第19条　補欠選出による役員の任期は前任者の残任期間とする。

第20条　その他必要な事項は役員会にて定める。

第6章　事　務　局

第21条　本会は会務を処理する為事務局内に事務局職員を置くことが出来る。

第22条　事務局職員の任免にあたっては理事会の議決を経て会長がこれを行う。

第23条　事務局職員との労働締結は理事会の議決を経て会長がこれを行う。

第24条　事務局職員の就業については事務局長の責に基づきこれを行う。

第25条　事務局職員の雇用関係は別に定める事務局職員就業規則及び事務局職員給与規則に基づく。

第7章　会　　議

第26条　本会の会議は次の各号とする。

1．通常総会

2．臨時総会

3．役員会

4．理事会

5．専門委員会

第27条　総会は本会の最高議決機関であり出席正会員を以って成立する。

第28条　通常総会は毎年1回会計年度終了後2カ月以内に会長が招集する。

第29条　臨時総会は次の各号の1に該当する場合に会

長が招集することができる。

1．役員会にて必要があると認めたとき。

2．正会員10分の1以上から会議に付議すべき事項を提示して要求があったとき。

第30条　総会の通知は事前にその会議の日時場所及び付議事項を示し郵便、電話、若しくは会誌によって正会員に通知しなければならない。

第31条　総会は議事の進行上議長、副議長各1名を出席正会員中より選出する。

第32条　総会の議事は出席正会員の過半数で決し可否同数の場合は議長が決定する。

第33条　正会員は各議決事項に対して1の議決権を持つ。

第34条　総会において議決する議案は次の各項による。

1．会務報告

2．事業報告

3．収支決算報告

4．役員選出

5．事業計画

6．収支予算

7．会則の改廃

8．その他重要事項

第35条　役員会は本会事業運営方法を図る議決機関である。

第36条　役員会は第41条に基づく役員及び第14条第7項に規定する役員を以って構成され出席役員によって議決される。

第37条　役員会は次の各号に基づき会長がこれを招集する。

1．定例役員会は毎年上期、中期、下期の3回行うものとする。

2．理事会にて必要あると認められたとき。

3．過半数の役員により会議に付議すべき事項を示して要求のあったとき。

第38条　役員会の通知は事前にその会議の日時、場所及び付議事項を示し郵便若しくは電信によって役員全員に通知しなければならない。

第39条　役員会において議決する議案は次の各号による。

1．事業運営方法

2．会則の改廃(案)

3．規則、規定の改廃

4．収支決算報告

5．補正予算

6．その他必要なる事項

第40条　理事会は本会運営方法を提議する機関であると共に、本会会務の執行機関である。

第41条　理事会は第14条第2号から第5号までの役員を以って構成する。

第42条　理事会は次の各号に基づき会長がこれを招集する。

1．定例理事会は毎月の会計日5日以内にこれを行う。

2．会務執行上必要あると認めたる場合随時理事会を招集することが出来る。

第43条　理事会の通知は3日以前にその会議の日時場所及び付議事項を示し、郵便若しくは電信によって第41条による役員全員に通知しなければならない。但し緊急を要する場合はこの限りでない。

第44条　理事会において議決する議案は次の各号による。

1．総会の議案

2．事業計画運営方法

3．規則、規定の改廃

4．会則の改廃(案)

5．補正予算(案)

6．支部・支会規程の設定及び変更の承認

7．補欠選出に関する事項

8．理事会にて必要あると認められた事項

第45条　専門委員会は本会事業運営上特に必要あると理事会にて認めたる場合にこれを設置することが出来る。

第46条　専門委員会は本会目的事業のため生ずる問題を細部にわたり調査せんとする機関である。

第47条　専門委員会の委員には本会役員の他、部門に応じて委員を依頼することが出来る。

第48条　専門委員会はその報告等を文書にて理事会に提出しなければならない。

第8章　会　　計

第49条　本会の資産は次の各号による。

1．基本財産

2．運用財産

3．引当財産

第50条　本会資産の定義は次の各号による。

1．基本財産は理事会及び役員会の決議により基本財産に指定された財産（備品）若しくは総会において編入を議決したものをもって構成する。

2．運用財産は基本財産及び引当財産以外の資産とする。

3．引当財産は特定の目的をもつ積立金で総会の承認を受けるものとする。

第51条　本会の財産管理並びに会計は日本大学工学部校友会経理規則によるほか理事会で議決された方法によって会長が管理する。

第52条　本会の経費は会費、資産又は事業から生ずる収入若しくは寄付金その他の収入によって支弁する。

第53条　収支決算及び財産（備品）目録は毎会計年度終了後2カ月以内に会計監査の意見書を付け総会の承認を受けるものとする。

第54条　本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

第9章　会　　費

第55条　本会の会費は次の各号とする。

1．入 会 金　　10,000円

2．終身会費　　5,000円

3．賛助会費　　1口 100,000円

第56条　入会金は日本大学工学部入学時に納入する。

第57条　終身会費は毎年に亘り徴収しない会費で日本大学工学部卒業時に納入する。

第58条　賛助会費は入会時に納入する。

第10章　補　　則

第59条　本会則施行に必要な規則は別に定める。

付　　則

本会則は昭和43年4月1日より施行する。

昭和45年4月19日一部改正

昭和46年4月18日一部改正

昭和47年4月23日一部改正

昭和49年4月21日一部改正

昭和50年4月20日一部改正

昭和51年5月23日一部改正

昭和55年4月26日一部改正

会員管理の電算化の現況

校友会報No.35号でお知らせしたように、54年3月から会員管理の電算化を進めてきたが、会員各位の絶大なご協力を得て、下表のように、その第1回分として55年4月末に、登録済みの 5,799人についての各種名簿をoutputした。

登録したデータを1つの名簿にすべて記載すると1人についての事項が膨大になり、1ページに20人ぐらいではページ数がかさむので、名簿の種類を多くしてそこには最小限のデータをのせることにしてある。各名簿の内容は次の通りです。

①基本名簿：卒業回、学科ごと。氏名、会員番号、勤務先名と職名とその電話番号、現住所と電話番号。（1ページに約75人）

②産業別名簿：産業区分ごと。氏名、会員番号、勤務先名とその職名と所在地と電話番号、現住所と電話番号。（1ページに約30人）

③県別名簿：県ごと（原則として勤務先の県）。氏名、会員番号、勤務先名とその職名と所在地と電話番号、現住所と電話番号。（1ページに約30人）

④クラブ別名簿：クラブごと。氏名、会員番号、勤務先と職名とその電話番号、現住所と電話番号。（1ページに約75人）

⑤出身県別名簿：県ごと（出身高校の所在県）。氏名、会員番号、出身高校名、勤務先と職名とその電話番号、現住所と電話番号。（1ページに約75人）

⑥索引名簿：アイウエオ順。氏名、会員番号（1ページに約450人）

卒業生の会員にはこのoutputした名簿の必要最小限の部分をコピーしてお渡し出来ます。例えば

①基本名簿：土木4回生だけの名簿とか

②産業別名簿：設計事務所業（EO4）の人達の名簿とか

③県別名簿：北海道の名簿とか

④クラブ別名簿：山岳部（032）の名簿とか

⑤出身県別名簿：青森県の出身者の名簿とか

このように欲しい名簿の種類と内容をはっきり書いて、郵送料として50円切手2枚を送ってくれれば、そのコピーをお送りします。

この名簿の中で未登録者と云うのは、連絡はついているのに新規原票を送ってくださらない人ですが、この企画をご理解下さって直ちに原票を送って下さるようお願いします。

会報No.35にあるように、inputやメンテナンスは年4回行なうが、outputは年1回です。今の計画では56年5月初めに全会員（約2万人）のoutputをし、①の基本名簿を版下にして印刷製本して総合名簿とする予定です。これらのことについてご意見やご希望があったら、事務局まで申し出て下さい。

区分 / 卒業回		該当者	55年4月末現在			55年7月末現在		
			各種名簿にoutputされている者	(内、不明者)	未登録者	電算機にinputされている者	(内、不明者)	未登録者
第二工学部	1回～14回	4,739	3,134	(797)	1,605	3,188	(818)	1,551
工学部	15回～21回	5,954	0		5,954	1,966	(421)	3,988
	22回～26回	6,112	0		6,112	0		6,112
	27回～28回	2,381	2,381	(0)	0	2,381	(0)	0
計		19,186	5,799	(944)	13,750	7,535	(1,239)	11,651

校友短信

（校友会の事務局にきたお便りや、その他の連絡などから無断で掲載いたしました。ご了承下さい。）

土木工学科

◇**今野完治**（16回卒、三井不動産建設㈱東北支店工事課）

海外勤務で、マレーシア・シンガポール・インドネシア等に4年間をつとめ、この4月末に帰国しました。

◇**藤田勝巳**（16回卒、広島県竹原市立竹原中学校教諭）

母校を卒業して12年!! 教員として人間性豊かな子供達の養育に励んでいます。母校の体育館で練習した汗を、今生徒と共に流しております。全国中学生卓球選手権大会にも出場しました。今年も参加すべく意欲を燃やしております。

（55．3．25受）

◇**上村　敬**（18回卒、上村建設㈱代表取締役）

父の跡を継いで、2代目社長になりました。近畿地区の支部を作りたいので、有志の連絡を待っています。

（55．3．26受）

◇**鈴木昭次**（18回卒、鴻池組名古屋支店土木工事課土木工事係主任）

名古屋支店管轄を転々と現場が変っています。先輩や後輩の勤務先を知ることにより、日本大学工学部校友会が、より親密になると思いますので、早く名簿をまとめて下さい。

（55．3．31受）

◇**森山有三**（20回卒、梶谷調査工業㈱設計部横浜事業所）

53年4月に、INDONESIAでの約1年の勤務を終って帰国以来、下水道設計業務を行なっています。

（55．3．29受）

◇**佐藤安英**（20回卒、㈱中部ウェルボーリング社常務取締役）

名古屋市　　で、地質調査を主体として、測量・さく井工事・物理探査を行なっています。石油ショック以来、若干仕事量が減っています。みなさんのご協力をお願いします。

（55．4．5受）

◇**飯田　誠**（21回卒、三井道路㈱北海道支社工務部工事課主任）

現在大阪支社の方に来ていますが、5月にまた北海道の方へもどります。北海道支社といえども冬の間あそばしてくれません。一度母校をゆっくり見たいのですが、思うようにゆきません。郡山市役所に行っている先輩諸氏、どうかそのようなチャンスをつくって下さい。

（55．4．3受）

建築学科

◇**矢俣敏之**（8回卒、㈱大林組福岡支店建築部設計課）

卒業以来20年が過ぎ、なかなか母校へ伺う事もできず残念です。31年頃は古い木造校舎で、寒い冬など耐えがたいものがありましたが、今は立派に整備され、そのおもかげも皆無の様ですし、感慨無量と云った所です。是非わが母校へ伺いし、倉田・師橋先生等にお会いしたいものと念願しています。

（55．6．9受）

◇**小幡日出男**（15回卒、㈱小幡建設常務取締役）

長野県上田市でがんばっています。事務局の方々も大変ご苦労さまです。校友会報を毎回楽しみにしています。押忍。これからも「忍」としてがんばります。

（55．4．23受）

◇**奥山文朗**（16回卒、㈲プラニングルーム・キョート代表取締役）

京都で技術士（都市及び地方計画）事務所を主宰しています。在学中は学部名変更運動当時で、積極的に運動に参加しました。今は大学から地域に場をかえ、まちづくり運動を推進しています。

（55．3．29受）

機械工学科

◇**近藤義明**（15回卒、アクメエンジニアリング㈱代表取締役）

奈良市で自営です。校友会報を毎号楽しく読ませていただいております。そのたびに「学校も変ったな」「今の学生は幸せだな」と思っています。学部が年毎に発展することを嬉しく思う反面、旧校舎や昔の名物教授が亡くなられる度に寂しく思います。学部及び校友の今後一層の御発展を祈ります。

（55．3．28受）

◇**渡辺迪雄**（17回卒、川鉄鋼板㈱松戸工場製造卸保全課保全係長）

校友会報を見るたびに立派になる学園を大変うれしく思います。学園内の様子は自動車部のOB会や現役よりの通信でも時々聞いています。立派な会員名簿を楽しみにしています。

（55．3．25受）

◇**遠藤富士男**（18回卒、鈴木歯科医院）

福島県の須賀川高校を出て、45年に日本大学工学部機械工学科を卒業し、51年に日本大学歯学部を卒

業しました。現在は郡山市堤下にある鈴木歯科医院に須賀川から通勤しています。

(55．3．29受)

◇**木内英洋**（20回卒三井造船㈱玉野事業所第2機械設計部）

大学院修士課程も卒業しましたが、工学研究科の同窓生についての情報も入手したいと思っています。校友会事務局で骨折って下さい。

(55．5．15受)

電気工学科

◇**藤山伸夫**（15回卒、藤山歯科医院）

卒業後に、日本大学歯学部に入学し、48年3月にそこを卒業し、48年6月に歯科医師の免許を取得しました。四国で開業しています。

(55．4．7受)

◇**亀井速夫**（旧姓土岐田）（16回卒、市光工業㈱品質管理1課主任）

校友会報をなつかしく愛読しています。編集の方のご苦労に感謝しています。入学後1年間は北心寮で寮生活を経験しました。当時（38年）の寮はボロ家で大変きびしい所でした。またそのころ仲間と「ロッキー・マウンテン・ボーイズ」というウェスタンバンドをやり、学部祭のダンスパーティーの出演やＮＨＫでのラジオ録音などをやり、今でもなつかしく思い出しています。そのころのメンバーは今何をしているでしょうか。近況を知らせて下さい。マンドリンの村井元彦君。バイオリンの大村昌康君。ギターの古川恵一君。ドラムの阿部一晴君。ベースの片岡宏一君。

(55．3．27受)

◇**入山高光**（18回卒、㈲岐阜羽島観光）

卒業後、47年9月に国内旅行業務取扱主任者の国家試験に合格、羽島市で自営しています。

(55．6．16受)

◇**坪内昭朗**（19回卒、京都セラミック㈱ソーラーシステム事業部技術部係長）

本年3月、9年間勤務した三菱電機（変圧器設計や海外変電プロジェクト設計など担当）をやめ、京都セラミックに入社。太陽電池技術を利用して、代替エネルギー部門に参画することになりました。

(55．6．16受)

工業化学科

◇**清水由雄**（18回卒、中央化成品㈱営業部）

勤務先は東京の銀座ですが、横浜から通勤しています。神奈川在住者で神奈川支部を作りたい旨呼びかけたいのです。

(55．3．27受)

◇**深沢康俊**（18回卒、日本ゼオン㈱技術開発センター分析課）

卒業後、日本大学大学院理工学研究科に入学、50年の卒業時に工学博士の学位を取得しました。現在日本ゼオンに研究員として勤務しています。

(55．4．23受)

◇**吉田正史**（20回卒、㈱巴商会）

当社は東京の太田区　　にありますが、日大工学部のＯＢが多く、勤務にはげみとなっています。必ず後輩達が入社してくれることを望んでいます。

(55．3．26受)

噂のページ

◇**武田廣己君**（電気1回卒）

昭和45年、新日鉄人事部付課長で日本ドラム缶製作所へ出向、現在、同社生産部次長の要職にあります。このたび工学部の招へいにより、昭和55年度新入学生歓迎行事の一環として、4月7日、「意欲的な学生生活でありたい」との演題で講演されました。激動25年間の体験をまともにぶつけられた武田君の厳しいなかにも暖かい語り口は新入生諸君へ多大の感銘を与えました。　（国分欽智・電1）

◇**伊藤　巌君**（化学4回卒）

10年前に脱サラして、㈱朝日ラバーを設立、工業用ゴム製品を製造販売、最近は表示用電球のカラーキャップ（商品名、朝日カラー）を開発しました。現在50余名の社員が生産に従事しています。去る5月24日、新宿・三井ビル54階メヌエットで創立10周年記念パーティが盛大に開かれました。

（後藤尚・化2）

◇**亀谷　透君**（機械12回卒）

例えば、東北北海道地方のカラー鉄板の屋根材の約9割は大洋製鋼㈱で製作されていますが、彼はそこの製品開発課長として頑張っています。今年の暮には約30億円の設備投資をした新しいラインが完成するとのこと。社内には13回卒の志賀明誕課長をはじめ、本学で副手をしていた太田浩二君らが続いています。　（菅野宗和・機2）

〔表紙説明〕

55年5月に学園の上空北側から南の徳定方面を望んだ景色です。右上方にかすかに東北新幹線が見えます。これは工学部の広報委員会からお借りしました。

支　部　だ　よ　り

◇九州支部設立される

昭和55年7月15日待望の工学部校友会九州支部（沖縄県含む）が福岡市平和楼に於て盛会の中に設立発足しましたので校友会諸兄に御報告致します。

これも本部からの結成要請に依る会員、関係各位のご尽力によるもので心から御礼とお慶びを申し上げます。

会は椿正大氏（建・11回）の司会により経過報告と役員推薦による支部役員が決定されました。

来賓として出席された、工学部事務局次長石田先生より工学部の現況と今後の計画等が話され、今さらながら母校の益々の隆昌には隔世の感があり感慨無量でありました。

続いて校友会武田会長からは校友会全般にわたる活発な活動や増大する校友会員の名簿の管理をコンピューターで処理されることを聞き校友会の皆様方が果された数々の御功績を称えその活躍に心から敬意を表するものであります。

地元来賓として日本大学理事、日大校友会福岡県支部長弁護士の松岡先生の大学本部における日大の現状についてのお話があり、更には他の大学には見られない校友会の活動や……本学内でも特に工学部は目ざましい活動をしている称賛の御挨拶がありました。

引続いて松岡先生の音頭による乾杯、懇談会にうつり宴酣ともなれば本学よりの来賓の先生十数名の方々並びに会員同士が個々に往時を偲び胸襟を開き話に花が咲き和気靄々の内に時間の過ぎるのも忘れ、非常に有意義な会でありました。

最後に全員で校歌を合唱し健闘を誓いあい名残りを惜しみながら散会となりました。

尚当支部会員は名簿の整理された会員が約500名、未整理分と合わせると約 1,500名程度と推定される。

以上の会員を擁しながら今回の発足総会の出席会員は約50名で不本意な数でありましたが、この欠席の要因としましては短期間内の事務連絡による会員諸氏の都合がつかず大部分が住所変更等による宛先不明等でありました。斯様な次第で出席の悪かったことを深くお詫び申し上げますと共に本会発足の準備に御苦労を戴いた、椿(建・11回)、石本(土・12回)、陶山（建・15回）の3氏に厚くお礼申し上げます。

今後は本会の会則の目的にのっとり会員一同協力し益々の発展を祈念致し頑張る所存でございますので、本部の皆様方の御指導と御支援を賜ります様お願い申し上げ御報告といたします。

九州支部支部長　川越　正(専門部工科土木科第2回卒)

◇東海支部総会開催される

第7回東海支部総会は去る55年6月7日、名古屋駅前ホテルニューナゴヤで会員多数出席のもとに、盛大に開催されました。

総会は平野卓支部長（土3回卒）の挨拶で始まり、続いて来賓として出席された半沢忠副会長より校友会全般の活動状況、母校の近況、会員名簿の電算機処理の状況、故根本年雄元会長の急逝等を含めて挨拶がありました。次に昭和54年度会務報告、事業報告、昭和55年度事業計画の説明があり、全員一致で無事総会を終了した。

引続いて懇親会に入り、自己紹介や名刺交換で、近況を話しあい、幹事のとりはからいで出席した美人が花となり、祝宴は一層賑わい、歌や、踊りで時の経つのも忘れ、いつか流れる校歌、寮歌を口ずさむ、遠く静岡より出席された藤原さんの御挨拶の後、久しぶりに聞く、日大節、郡山で学び日、当時のことが想いだされた。小雨降る名古屋もすっかり暮れてしまった。

（工業化学科第14回卒業　　本会理事　小川敏彦）

◇北海道支部総会

昭和55年度工学部校友会北海道支部総会は、本部から武田会長、太田理事や日本大学工学部の北海道地区父兄懇談会に出張された、学部次長片山将道教授他9名の教員の方々のご出席のもとに、北海道各地からは40数名の会員が参集して、7月17日午後6時から札幌第一ホテルにおいて開催された。

片山次長、校友会長、支部長のご挨拶のあと、恒例の自己紹介があったが、司会のいざないに、家族のこと、職場のこと、さては学生時代の秘めごと？まで話させられ、名のるのを忘れる者もある始末で、楽しい一時をすごし、校友のきずなの強さを確めあった。

特に会長は、九州支部結成に参加してすぐに北海道に飛んでの出席であり九州の様子を報告し、喝采を受けた。9時予定の時刻となり、校歌、若きエンジニヤの歌、北心寮々歌を高らかに唱和し、太田理事の万才三唱をもって閉会した。

（機械工学科第9回卒業、本会事務局長 佐藤光正）

CAMPUS

mini MEMO

◇ 陸上競技場を建設中

東側の校地に、新設工事が進められています。（右の写真で、手前が学生の駐車場、その向う側で工事中です。）
55年9月末に完成の予定で、日本陸上競技連盟第三種公認の陸上競技場になるそうです。
概要は次の通り。
1周 400m トラック（表層砂質ローム仕上げ）6コース
直走路 140m 8コース
ハンマー投、円盤投兼用サークルおよびピット。砲丸投、槍投走高跳、三段跳、棒高跳の各ピット。
中央フィールド部分はラグビー場を兼ねる。

◇ 校友の母校での教員

昭和55年4月1日付で、次の卒業生の教員が昇格されました。

助教授	土木工学科	西村　孝（13回卒）	
	電気工学科	小林　力（13回卒）	工博
専任講師	機械工学科	小川　清（16回卒）	
	電気工学科	長澤幸二（20回卒）	

◇ 並木・吉沢・岩田先生らが定年退職

それぞれ定年になられ、退職されました。
並木満之助（機）昭42.4.1～昭54.11.6

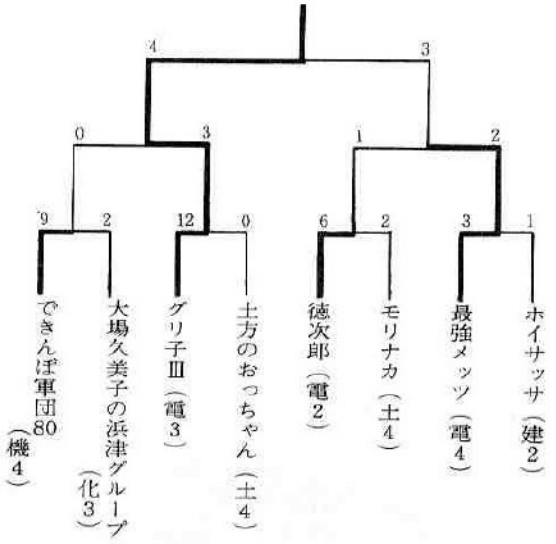
吉沢周蔵（機）　昭27.4.1～昭55.1.22

岩田芳夫（化）　昭22.6.1～昭55.4.24

長い間のご薫陶に対して、会員一同、感謝いたしたいものです。

◇ 軟式野球で電気3年が優勝

昭和55年度日本大学工学部スポーツ大会軟式野球の部が、5月28日から6月17日にかけて行なわれ、電気3年の「グリ子Ⅲ」が優勝した。
これは、工学部の主催で、早朝を利用して行なわれたもので、参加チームは42チームもあり、早朝野球にこんなにも多くの学生（職員チームが1チームあり）が参加するのは、日本広しといえども、工学部の特徴かも知れない。
準々決勝からの戦績表を下方に書いてみたが、チーム名から、現在の学生気質の一面がのぞかれそうです。



◇ 器楽練習室棟完成

大講堂（体育館）の北側に、55年3月末に完成しました。校友会事務局（30周年記念館）の西隣です。
1階 368㎡　　2階 274㎡
練習室4、音調室1、楽器倉庫4　などとなっています。

（た）

根本年雄氏を悼む

元会長　**関根昭一**

昭和31年、日本大学第二工学部を卒業された根本年雄氏は、工学部校友会創設当時から現在まで、本会の役員をつとめられておりましたが、5月22日脳血栓のため急逝いたしました、ここに謹んで御知らせいたします。

根本氏は、温厚実直な人柄で、私の後任として工学部校友会第四代会長として就任され、本会のために尽くされた功績は語りつくせないものがあります。

特にあの不幸な学園紛争当時は、事態収拾の手がかりを求めて身命を賭して活躍されました。当時のことを想うと、惜別の情一段と胸にこみあげてきます。

また、勤務されていた日本国有鉄道郡山工場においては、精励の誉たかく、円満な人柄は同僚諸氏から、厚い信愛の情を受け、今後の活躍が非常に期待されておりました。

本会にとっても、更に社会的にも、いよいよこれからという矢先のことでした。誠に残念でなりません。ただただ、黄泉への道のりが安らかでありますように念じ、御家族の皆様には悲しみの中から早く立直られますよう祈っております。　　合掌

喪主　根本　尚

◇ 広告の募集

会報に校友の皆さんからの「広告」を下記の要領で掲載いたしておりますので奮って御応募下さい。

- 会報の発行予定　年2回
- 会報の発行部数　約24,000部
- 広告料金

規格	左右×天地	料金
変B5版 本文の約半頁	143mm×47mm 又は67mm×94mm	20,000円
〃 約半頁	67mm×47mm	10,000円

- 要　項

①応募は校友及び校友の関連する企業等に限ります。
②原稿は随時受付けますが、会報紙面に余裕がなくなった場合は次号へ繰下げます。
③原稿内容の形式は自由（写真、図等含む）とし校友としての短信を入れてもよく、又氏名を入れる場合は○○科○回卒と記入して下さい。
④原稿はレイアウトして送付して下さい。（指定のない場合は事務局におまかせ下さい。）
⑤料金は原稿送付と同時にお願いいたします。
　㊟　銀行振込口座　秋田銀行郡山支店普通No.402630
　　郵便振替口座　郡山1990
⑥詳しくは事務局まで御連絡下さい。

北海道支部
支部長　三上　茂（機8回）三上建設㈱
事務局長　船越政明（土15回）札幌市役所道路建設課

東京支部
支部長　古村和夫（土3回）古村建設㈱

東海支部
支部長　平野　卓（土3回）建設省中部地方建設局丸山ダム管理所
事務局長　河野　叶（土6回）東名開発㈱

九州支部
支部長　川越　正（専土2）東急道路㈱九州営業所
事務局長　陶山順一（建15）㈱陶山建設

校友会報第36号
発行所　日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号　979－66
電話番号　郡山(0249)44－1327
振替口座番号　郡山1990
発行日　昭和55年9月1日
発行者代表　会長　武田仁幸
編集者代表　事務局長　佐藤光正

特許第168845号
コンクリート型枠剥離剤
よく剥離・よく接着・仕上塗安全
モールド
株式会社 宏栄社化学研究所
本社・工場 北海道小樽市最上1-23-9
TEL小樽(0134)代表33－1361
工業化学科11回卒　取締役技術部長　斎藤宏二